

1

第11次交通安全基本計画 (中間案)への意見 〈資料1〉

会員共通の切なる願い・・・ 「こんな悲しみ、苦しみは、 私たちが終わりにして欲しい」

北海道交通事故被害者の会
代表 前田敏章

1

2

発足から21年

北海道交通事故被害者の会の活動と願い

会員の構成： 119家族
7割：遺族 3割：怪我・後遺症
(遷延性意識障害 5家族)

① 相互支援と交流・学習



総会・交流会 2019

② 体験講話・・・「命の大切さを学ぶ教室」
など32回 (昨年は80回)、延べ1284回、24万人(うち中学高校は、571校、17万人)

③ 「いのちのパネル展」
4会場25日間
(昨年は 25会場・100日)
延べ 400会場 1800日



会報発行
年3回 通巻62号

父交通事故被害者の会
第60号 2019年8月20日 (年3回発行)

二つの命
北4巻 福澤 きよ子

飲酒運転で失われた命
手記



2

④ 要請活動 「交通犯罪被害者の尊厳と権利、交通
犯罪・事故根絶のための要望書」を毎年関係省庁に提出 3

被害者の尊厳と権利

- ・公正で科学的な捜査
- ・被害者参加制度の純化(公判前整理手続への参加)

交通犯罪の厳罰化

- ・危険運転致死傷罪の厳正な適用
- ・漫然運転など過失事件を結果の重大性から重罰化
- ・ひき逃げなどの公訴時効制度撤廃

交通死傷ゼロ施策の推進

- ・クルマを凶器とさせない為に免許条件の厳格化
- ・脱・スピード社会
- ・「ゾーン30」「歩車分離信号」「自転車レーン」など
歩行者優先と交通静穏化の推進

切なる願い **こんな悲しみ苦しみは 私たちで終わりにして欲しい**

3

⑤ 公開フォーラム「世界道路交通被害者の日・北海道フォーラム」を主催
「交通死傷ゼロへの提言」〈資料2〉を採択 4

「まちと生命を守る『脱・スピード社会』を」 小栗幸夫(2009・2013)
「クルマ社会と子どもたち」 今井博之(2010)
「車道至上主義から道路交通文化の時代へ」 津田美智子(2011)
「ゼロへの課題と被害者の人権」 島田尚武(2014)
「飲酒運転根絶と交通死傷ゼロへの課題」小佐井良太(2015)
「今こそ『ゾーン30』と『分離信号』の本格実施を」長谷智喜(01・2016)
「運転教育・管理の問題点と安全運転法」松永勝也(2017)
「高齢者を被害者にも加害者にもさせないために」伊古田俊夫(2018)
「被害者の尊厳と権利を護るために」 諸澤英道(2007・2019)



4

第11次計画(中間案)への意見 5
パラダイム(社会の価値観 考え方)転換の明記を

1 「交通事故のない社会」(死亡・重傷ゼロ)を「究極的には」でなく中期目標として示し、その過程としての目標値に上方修正を

2 走行速度の抑制と規制を明確に

速度規制強化と、ISA(高度速度制御システム)の早期実用化など

3 生活道路の歩行者保護と静穏化の徹底を

西欧の取り組みに学び、歩行者、自転車、子ども、高齢者の安全を守りきる道路と街路へ

◆「ゾーン30」 ◆「歩車分離信号」 ◆「自転車レーン」
 など、核となる施策の、早期普及徹底の明記を

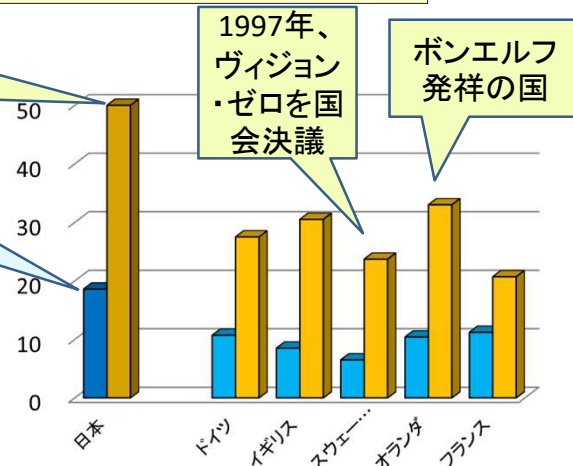
5

西欧に学び、被害ゼロへの道を 6

交通死に占める「歩行・自転車の割合」

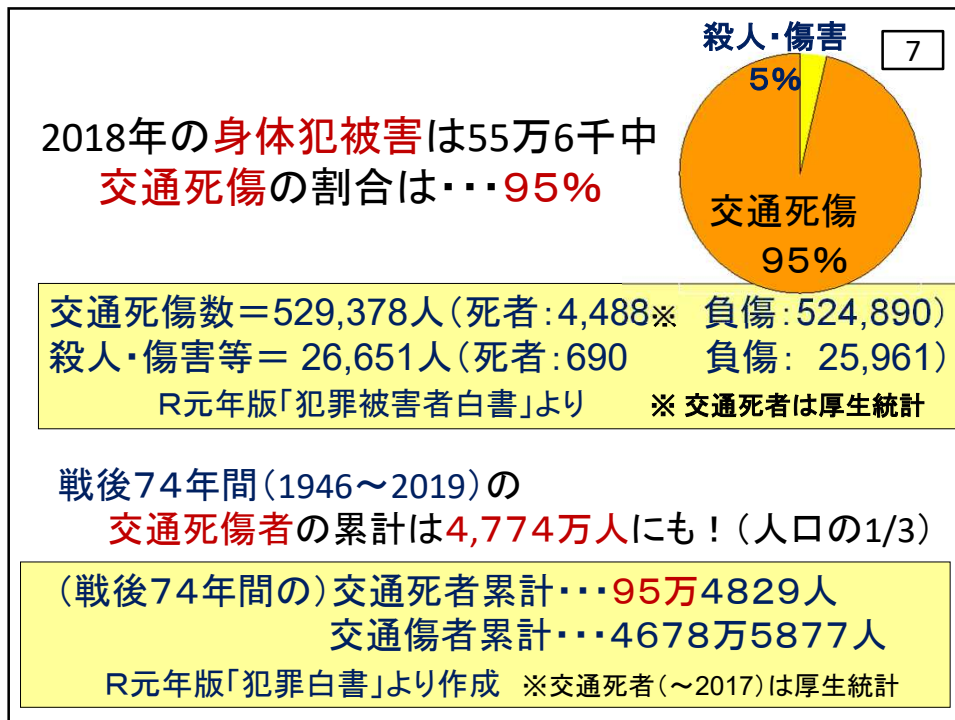
「歩行・自転車」
 死者数
 (人口100万人比)

2018年交通安全
 白書より作成
 数値は2016年

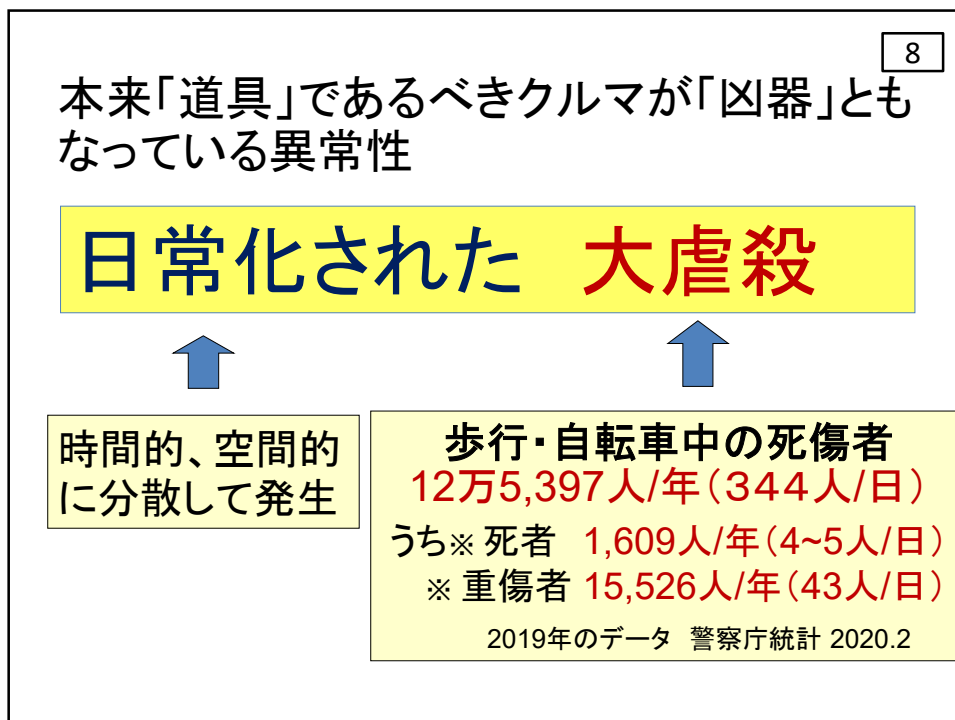


※ 2019年、ノルウェー(人口530万人)では
15歳以下の子どもの交通死がゼロに!

6



7



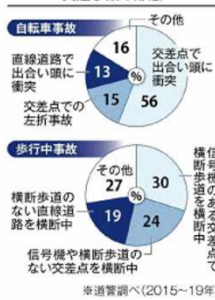
8

北海道でも・・・今も止まない歩行・自転車中の犠牲

9

小学生 交通事故相次ぐ

小学生が被害に遭った交通事故の形態



自転車に乗っているときや歩行中の小学生が犠牲となった死亡事故(2015~19年)

年	死亡人数	状況
2015年6月	1名	上川管内新ひたか町で、小学3年の女児(8)が自宅近くで町営バスを降車後に乗用車にはねられ死亡
16年5月	1名	稚内市で、小学1年の女児(6)が自宅敷地内で祖父の運転する乗用車にはねられ死亡
19年7月	1名	日高管内新ひたか町で、町道を自転車で横断中の小学4年の女児(9)がワゴン車にはねられ死亡

重大事故の被害者は、7月6日昼に札幌市中央区で自転車に乗っていた年女児(8)がワゴン車にひかれて死亡した。9月6日には同市清田区の交差点で、1年男児(7)が乗用車にはねられ死亡した。10月15日昼には同市手稲区の市道で、1年男児(6)がワゴン車にはねられて3日後に死亡。同日20日朝にも同市中央区の交差点で、登校中の3年男児(8)が乗用車にはねられ、肩の骨を折る重傷を負った。道庁によると、15~19年の5年間に自転車乗車中や歩行中の交通事故で死亡した小学生は3人、負傷者は計97人。今年10月末時点では104人が負傷以外では、このうち6人が重傷、今年10月末時点では、道警「歩行者保護 徹底を」

7月以降 札幌で2人死亡1人一時重体

札幌市内で今年7月以降、自転車乗車中や歩行中の小学生が重傷にはねられて亡くなるなどの重大事故が続いている。道警によると、2人死亡し、1人が一時意識不明の重体となった。2015~19年の5年間で市内の小学生の死者は3人だが、今年は7月以降だけで2人が亡くなる深刻な事態だ。道警はドライバーに対して歩行者保護の徹底を求めている。(山中悠介、川口大地)

コロナで啓発活動不足 道警「歩行者保護 徹底を」

2020年12月2日
「北海道新聞」

西田事務局長が挙げる事故防止のポイント

- 1 止まる 道路に飛び出さない
- 2 見る 左右をよく確認する
- 3 聞く 目だけでなく、音でも危険を知る

9

克服すべき 人命軽視の麻痺した「クルマ優先社会」

10

- × 自動車は、リスクを上回る利便性がある
- × 事故(アクシデント)だから仕方ない
- × 被害者は(加害者も)運が悪かった
- × 誰もが加害者になるかもしれないから 加害者の罪は軽く
- × 賠償すれば良い(命=お金)

10